



長府高等学校 なぎなた部

令和4年度全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会で、個人試合優勝、団体試合3位入賞。競技人口も多くな、決して恵まれた環境とは言えない下関で、彼女らはいかにして強くなったのか。

みんなで成し遂げた
全国制覇

長府地区×なぎなた

なぎなたと聞くと、源義経に仕えた弁慶が手にしていた得物を思い浮かべる方もいるのではないのでしょうか。専守防衛の武術として、僧兵や武家の女子に継承され、女子の武道として発展してきたなぎなた。昔は、華道や茶道、着付けに並ぶ嫁入り修行の一つでもあったそうです。

県内で唯一、なぎなた部がある長府高校。その始まりについて、顧問の嶋田信子先生に話を伺いました。

「今から約30年前、県内で一斉に武道場を作ろうという動きがありました。もともと長



▲個人試合、団体試合に出場した部員たち。

府高校は女子校で、ここは歴史ある城下町。

当時の校長の小川毅先生が、女子の武道を取り入れた特色ある学校づくりに取り組まれ、平成4年に同好会として、そして、平成7年になぎなた部が誕生しました」

試合での全国初優勝

8月15日、香川県で行われた個人試合決勝戦。引き分けなしの延長戦を制した森脇佳奈さんに、試合を振り返ってもらいました。

「どちらかが一本取るまで終わらない展開で、相手も息が上がっていました。ここで取らないと負ける。そう思った時、見えたんです、相手の隙が光に照らされたように見えたその光景を、森脇さんは今でも覚えていると言います。「打ち込むイメージができた。後は体を動かすだけ。いける」相手も自分と同じ、踏み込み面を得意とする選手。渾身の力を振り絞り、互いに面を打ち合った末、先にそれを捉えたのは森脇さんのなぎなたでした。」



Linked Instagram インスタグラム

市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します



♡ Q ▼ @knt_yamaさん



♡ Q ▼ @blue.rafi_san.pachiさん



♡ Q ▼ @yokisiroda56さん

Autumn Leaves, Castle Town Grotto

Editor's note

編集後記

■79歳で日本最高齢サブフォーランナーだった藤永礼三さんは、81歳でも海響マラソンを完走。パワフルです！追いつけません。廣野
■今年の3年生が入学した頃は、ちょうどコロナがはやり始めたとき。青春らしい話を聞くことができ、うれしかったです。宮村
■織田さんの言葉「自分が自分を応援しないと絶対に道は開けない。自分を応援する一番の協力者はやっぱり自分だと思います」西村

▶基本の構え



八相 脇構え 下段 中段 上段



◀有効打突の判定は厳しい。物打と呼ばれるなぎなたの打突部で体の打突部位を捉えるだけでなく、姿勢や動作、打突部位の呼称、さらには氣勢、残心など一瞬たりとも気が抜けません。



▶面、胴、小手に加え、打突部位に「すね」があるのもなぎなたの特徴。部員たちには、打たれて一番痛いのはと聞くと、満場一致で「すね」でした。下手にかわして防具のない所に当たると激痛が走るそうです。

強さの秘訣は仲間の力
部員の皆さんがなぎなたと出会ったのは、その多くが高校での部活紹介。県外の選手に比べ、なぎなたの経験年数では劣る彼女らが、ここまで強くなれた秘訣とは。
「嶋田先生がたくさん機会を与えてくれたことが大きい」森脇さんは、こう話します。
日々仲間と切磋琢磨する中で、数多く遠征し、前年度の優勝校など強豪校と練習することで経験を積みました。そして、男子部員との練習も強くなれた理由の一つ。「力や体格はどうしても男子の方が上。日ごろから男子と練習してき

たことで、力の強い相手とも渡り合うことができました。
強くなれたのは、自分に関わってくれたみんなのおかげです」取材した日も、多くの卒業生が武道場で一緒に汗を流していました。みんなでつかんだ日本一。森脇さんに次の夢を聞くと「大学ではインカレで優勝して、社会人になっても国際大会で優勝。将来は体育教師になって、嶋田先生の後を継ぎたいです」と力強く話してくれました。

▼音楽に合わせて打突や型を披露する「リズムなぎなた」動画はQRコードから。
※個人のYouTubeチャンネルで紹介されています

